**令和４年度　第２回北杜市在宅医療・介護連携推進会議　議事録**

開催日時　令和５年３月２日（金）　１９時００分～

開催場所　高根総合支所　２階大会議室

出席委員　７名（欠席者：稲垣才子委員、清水百合子委員、津金永二委員）

　　　　 飯塚秀彦委員・三井梓委員・堀内敏光委員・塚越暁美委員・清水良憲委員・清水毅委員・浅川成彦委員

【事務局：清水福祉保健部長・白倉介護支援課長・輿水保健指導監・篠原介護予防担当リーダー・増山包括支援担当リーダー・小泉保健師・丸田社会福祉士】

傍聴人　　１人

１　開　　会

２　会長あいさつ

３　議事事項

議事録署名人　清水毅委員、浅川成彦委員

議長：飯塚会長

1. 各種調査による在宅医療・介護連携に係る現状と課題の整理

（事務局より資料１の説明）

＜質疑応答・意見＞

委員：ケアマネ不足は深刻だと思うが、市として研修などの支援策はあるか。

事務局：市ではたくさんの方に受験していただけるよう資格取得の費用補助をしている。それ以外では市内の事業所の方でケアマネさんの充足に向けて頑張っていただいている。

会長：先ほど説明があった、不足しているのに募集をしていないのはどういう理由なのか。

事務局：来年度に事業所巡りをして、その背景や理由等については確認しながら、実際にどのよ

うな状況があるのか課題を見つけていきたいと思っている。現在どのように募集されているのか私の方で調べてみたところ先ほど課題の整理でお話したような状況だった。今後、事業所巡りをしながら、募集についてもお願いをしていきたいと思っている。

1. 作業部会の活動報告

（部会長から報告）

部会長：昨年１１月２５日に３年ぶりとなる対面での作業部会を行った。４、５年前に部会が盛り上がったところでコロナにより活動がストップしてしまった。この月日の中で退職される方がいたり、３名ほど新しい方も入ったので、改めて仕切り直しでこれからやっていきましょうという場となった。

来年度にやってみたいことを聞いてみたところ、コロナでストップしてしまったことについてどうするか、出来れば具体的な方法についてアンケートなども取らせていただいてまとめているところである。また、最初の顔の見える関係づくりが第一だということで、まずは懇親会（食事会のような）をやろうという話や、zoom会議もできるようになったのでそういったものも活用していきたいと思っている。

１２月にはさっそく軽い食事会を催して、顔が見える関係づくりの大切さを確認したところである。

４月以降はまた話し合いをしながら、できるだけ早い時期に小さいことから始めようということになっているのでよろしくお願いしたい。

1. やまなし県央連携中枢都市における在宅医療介護連携の取組報告

（事務局より資料２の説明）

＜質疑応答・意見＞

会長：資料４ページの「切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の構築」は市町村間の連携の切

れ目のなさということを意味しているのか。

事務局：市町村間の連携のみでなく今後、資源の不足する地域も含めて、増大していく医療介護の需要に効率的に対応できるように、市民や事業者目線も踏まえながら、ICTを活用して、社会資源をタイムリーに共有できる形を目指しているところである。自分たちのところで病院がうまく見つからないといったような場合に、近隣にはどういう病院があって、どういう医療を提供しているのかなどをICTを活用してお示しできたらというようなことが現在検討されている。今後関係機関と協力しながら進めていくことになろうかと思う。

1. 医療介護連携推進のための事業整理（素案）について

（事務局より資料３の説明）

委員：コロナになる前に作業部会やこの会議をやるなかで、重層的支援体制整備事業が確か議論

されていたかと思う。地域を知って掘り起こして、支えるための連携につながるといった

ことが検討されていたはずだが、最近その話題が出てこない。予算がついてやるという話

があったがどうなったか。現状だけ教えて欲しい。

事務局：重層的支援体制は全ての年齢層を対象とすることから、福祉課を中心に進めていくものではないかと考える。重要なのは地域に誰ひとり取り残さない社会を形成していくということで、やはり地域との連携が大事になってくる。その中には民生委員さんやさまざまな関係機関の皆さまと連携を図っていかなければならない。庁内の連携会議においても、サービス調整会議というものがあり、福祉課、健康増進課、介護支援課、子育て支援課といった面々でどのように誰一人取り残さずやっていけるかということを検討しているところである。また福祉とも連携しながら進めていけたらと考えている。

委員：誰ひとり取り残さないという話だが、サービスが足りていない地域がある。明野地域の人

が待機している状況。サービスが少ない地域をどうすればいいかもビジョンに入れていた

だきたい。また進捗はどうなっているか？

事務局：重層的支援についての進捗は、研修をやっている程度であまり進んでいないのが現状である。障がい者、母子、高齢者など幅広い年代層となると、総合的な部分で福祉課が中心になって検討していくのがいいだろうと考えている。それから地域づくりということも重要になってくるため、社会福祉協議会との連携も重要になると考えている。

また、高齢者についてサービスが足りていないという件については、ゆうゆうふれあい計画の中で進めているように、小規模多機能事業所や看護小規模多機能事業所が少しずつ設置されていくところである。

行政だけでやれることには限りがある。現在、介護支援課の方で生活支援体制整備事業があり、社会福祉協議会と協力をしながら、地域で市民の皆さんがお互いに支えあえる体制づくりに向けて検討している現状である。

委員：具体的には何も進んでいないということか？

事務局：施設については令和３年、整備予定の看護小規模多機能事業所が１箇所あったが断念ということになってしまった。フルリールむかわの隣に今年度の完成を目指していたが、資材不足につき来年度に延期された。

市からも声をかけて、看護小規模多機能事業所をつくってくれそうなところが見つかった。来年度予算を計上しており整備されると思うので、また報告したい。地域偏在は課題であるので、引き続き、ほくとゆうゆう計画の中でも位置付けていく必要があると考えている。

1. その他

（事務局より追加資料の説明）

委員：介護支援専門員協会の地区支部長という立場からも発言させていただきたい。ケアマネ不足のことに関して報告があった。事務局で４月以降、事業所を一軒一軒回るのはいいアイデアだと思う。そもそも論として、なぜケアマネを募集しないのかというのは、事業所として収益が立たないというのが根底にあるから。事業所を閉じていこうという動きが県内でもかなり多くなっている状況である。こうした状況は市も把握していると思うが、事業所をバックアップしていく体制がどうにかできないか。介護保険は特別会計のため一般会計でやるのは難しいということは承知しているが、過疎地の介護支援体制をみると居宅介護支援事業所に対する支援を行っている保険者もある。そういったところがどのように財源を確保しているのかなど、事例を参考にしていくことも重要ではないかと思っている。

４　閉　　会

以上